

私の当院におけるNo.1

強いていえば、常勤の内科系医師の中では、診療従事年数が一番長いことです。もうすぐ40年になります。しかし、個人的には、No.1についてはあまり関心がなく、もう少し広い領域でのオンリーワンを目指して努力し続けることの方がはるかに重要だと思っています。県内外の糖尿病の専門家や医学教育の先生方との様々なネットワークを構築してきたことも財産です。糖尿病などの慢性疾患診療においては、重層的かつ経時的な変化を捉えていく‘四次元的な’視点が重要であり、年齢や所属の壁を越えて対等な関係で切磋琢磨しあえる多くの仲間がいることが励みになっています。県内外の医療の現状についても情報交換しあえることも貴重です。COVID-19(新型コロナウイルス感染症)の流行で、ほとんどface to faceの交流ができないことが2年も続いていることが残念で仕方ありません。



えりと烏丸半島と比叡山

私は、約30年前から滋賀県に住んでいます。滋賀県愛、とりわけ琵琶湖愛が年々深まるのを感じています。もしかすると、当院の転入者のなかではNo.1なのかもしれません。

医師ではない私の素顔

身体を動かすことが好きです。テニスで日焼けしているので、医師の中では黒さがNo.1だと思います。

生い立ちの影響もあり、エイジングを楽しめるような革・無垢の木のハンドメイドの小物が大好きです。医局にもいくつかお気に入りのものを置いています。COVID-19が落ち着いたきたら、まずは国内旅行をして、自然の景観を楽しみ、ふるカフェ巡りしてみたいです。海外も行きたいですが、定年後でしょうか？それまでは大声を出しながらテニスをして、健康維持をしようと思っています。



臨床検討会にて初期研修医と

専門領域、専門分野

糖尿病を中心とした内分泌・代謝疾患が専門です。糖尿病の合併症や併存症は多岐にわたるので、関連する病態についても、専門以外の知見もアップデートするように努めています。糖尿病の治療薬は、経口薬、注射薬ともここ30年ほどで種類が飛躍的に増えました。また最近では血糖変動の持続モニタリングも保険適応となり、1型糖尿病などで血糖が大きく変動しやすいケースでも、そのプロフィールを評価して、より細やかな治療薬の調整がおこなえるようになりました。糖尿病を含めた生活習慣病の予防活動も継続しています。COVID-19の流行後は、対面での健康教室や糖尿病友の会(滋賀さざなみ会)の活動も休止していますが、落ち着いてきたら再開する予定です。



ハンドメイドの小物たち

読者の皆様へひとこと

湖南医療圏は、今後高齢人口が急速に増加するため、医療介護の機能分担をさらに促進して対応することが必要です。2030年には、日本の高齢化率が30%を越えると予想されていますが、地球環境問題でも未来への分岐点に

なる年としても世界的に注目されています。COVID-19対応が当面の課題ですが、今後は、中長期的な医療、経済、環境の変化にも対処できるように、地域のネットワークをより強力なものにしていく必要があります。私自身も、当院が次の50年も地域に必要な存在であり続けられるように貢献したいと考えております。

滋賀県立総合病院の医学教育

～医師研修を中心に～

私は副院長として、教育も担当しています。当院では、教育研修センターを中心に様々なプログラムが企画運営されています。医師だけでなく、メディカルスタッフ、患者さん、地域の医療機関との連携など、対象も様々です。都道府県がん診療連携拠点病院であるため、がん診療のチーム医療の教育研修など、リーダーシップをとる機会が多いです。

医師向けには、初期研修医以外にも専門医育成プログラムを県内の医療機関と連携して構築しています。特に内科、耳鼻いんこう科、麻酔科については、当院も基幹施設となっています。

内科については、最短3年間のコースで内科専門医の資格を取得できるようにプログラムを構築し、さらに希望する subspecialty (例えば、循環器内科、消化器内科等) の研修も並行して行えるようにしています。主な連携先は県内の病院であり、All Shigaで若手医師を育成することを目指しています。

医師研修制度の理念では、'灌養(かんよう)'が重視されています。この言葉を聞くと、長年の戦乱と地球温暖化で荒れ果てたアフガニスタンで、医療だけでなく灌漑事業でも多大の貢献をされた中村哲先生の活躍を思い出します。指導医講習会でも、プロフェッショナリズム(使命感を持った専門職の価値観)をどのように指導して評価すれば良いのかが中心的な課題として取り上げられます。利他的な態度、人間性の尊重、自らを高める姿勢などが挙げられていますが、これは指導医自身も常にリマインドし続ける必要があります。

若手医師が数年で急速に成長していく姿を間近で見られることは、我々指導医にとっても喜びです。常日頃から、献身的にサポートしていただいている関係者の皆様方のご支援の賜物と感謝しています。これからもご協力のほど、よろしくお願いします。



採血の研修



初期研修医BLS(Basic Life Support)研修



令和3年度臨床研修・専門研修了式

滋賀県立総合病院広報委員会(事務局総務課)

〒524-8524 滋賀県守山市守山五丁目4番30号
電話077-582-5031(代表)

滋賀県立総合病院ホームページ
<https://www.pref.shiga.lg.jp/kensou/>



※本誌へのご意見や感想等をぜひお寄せください。

FACELがネット受付サービス

<https://ttzk.graffer.jp/pref-shiga/smart-apply/surveys/8124789265493085857>



〈院内紹介動画を配信中!〉

ふだんは入ることができない手術室の様子などを動画で紹介しています。ぜひご覧ください。



当院ホームページURL

<https://www.pref.shiga.lg.jp/kensou/center/322221.html>

